

## 肺結核患者ノ盜汗ニ對スル糖療法

岡山醫學專門學校附屬醫院第一內科教室

岡山醫學士 原 勝 巳

余ハ或ル二、三ノ疾患ニ對シ、糖療法實施中、最近肺結核患者ノ盜汗ニ憐メルニ、モナコー氏ノ創案ニカカル蔗糖液注射療法ヲゲルベル氏ノ施法ニ倣ヒ臨牀實驗シ、本療法ノ有效ナルヲ、大正十年二月岡山醫學會ノ席上ニ於テ報告シタリ。

曾テ Domenico Lo Monaco 氏ハ、分泌ニ關スル研究中、腸管外ニ攝リタル蔗糖ト分泌トノ關係ニ於テ、少量ノ蔗糖液ノ皮下注射ハ分泌ヲ促進シ、其大量ハ分泌ヲ抑制スト云フ事實ヨリ、此蔗糖液ヲ門弟 Bada 等ト共ニ、利尿、祛痰、止血、止汗等ニ對シテ應用シタリ。尙ホ祛痰ノ結果ハ、直接結核菌ニ殺菌的ニ作用スルニ有ラザレ共、菌發育ニ必要ナル Medium 除去、及ビ物質代謝上多量ノ「カロリー」ヲ與ヘ得ルト云フ見地ヨリ、其後主トシテ伊佛兩國ニ於テ、廣ク肺結核患者ニ對シ注射ヲ試ミタリ。

Lucherini, Galea 及ビ其レ等門弟、最近ゲルベル等モ、所謂モナコー氏法ガ、肺結核患者ノ多汗ニ有效ナリトノ報告ヲ爲シ居レリ。而シテ其レ等多汗ニ有效ナル所以ノモノハ、大量ノ蔗糖液注射ノ、「オスモーゼ」ニ與フル變化及ビ血管緊縮ニ作用スル爲ナラント説明シ、尙ホ注射サレタル糖ノ運命ニ就テ H. Bodmer 氏ノ報告ニ依レバ、注射サレタル蔗糖ハ、轉化セラルルコト無ク、四十八時間以内ニ總テ腎ヲ經テ排泄セラル、而シテ排泄ノ最盛ナルハ注射後四乃至七時間ナリト云ヘリ。而シテ其レ等止汗等上記諸作用ハ、本液ノ優滲性ノモノニ限り、五〇%ノ蔗糖液ニ於テ最モ著明ナリト爲セリ。

從來一定濃度ノ葡萄糖、食鹽及ビ尿素ハ、血管擴張ニ作用スト云ハレ、久保田氏ハ、暮後肢血管灌流法ニヨリ、

葡萄糖ニヨル高交流壓ガ血管口徑ヲ增大シ、低交流壓ガ血管口徑ヲ減ゼシムルヲ實驗セリ、而シテ〇・〇五%ノ食鹽ニ匹敵セル交流壓ノ變化ト雖モ、明確ナル影響ヲ有セリト云ヘリ。又山本氏ハ、青蛙後肢灌流ニ於テ、食鹽増加ニヨル滲壓増加ハ、蛙血管ヲ擴張スルモ、一定濃度ヲ越ル時ハ擴張後却テ收縮ノ傾向ヲ有シ、(甚ダシキ優滲壓ハ、初メヨリ血管ヲ收縮セシム)食鹽ノ減量ハ、血管ヲ收縮セシム可キヲ證明セリ。又近藤清吾氏ハ京都醫學會雜誌第十五卷ニ於テ、次ノ如ク述ベラレタリ、即、三%以上ノ二糖類、單糖類ハ著シク血管擴張作用ヲ呈スルモ、一定時ノ後却テ收縮状態ニ移行スル傾向有リ。是レ優滲壓ノ作用ニヨリ、組織細胞ノ、漸次導水セラルル爲ニ生ズル障得ニ期シ得可シト。

曩ニ余ハ五〇%ノ蔗糖液注射ニ依リ肺結核患者ノ盜汗ヲ止汗シ得タリト雖、「プロセント」高キ溶液ハ低キモノニ比シテ、注射部位ニ疼痛ヲ遺スコト大ナリ。而シテ余ハ其後五%ノ溶液ニ就テモ、效果ニ就テ五〇%ノ蔗糖液ト相異ヲ認メザルコトヲ確メ、左記ノ數例ニ臨牀實驗シ、甚興味アル成績ヲ得タリ。

Peterノ言アリ曰ク

Der Phthisiker schwitzt, weil er hebert, er schwitzt, weil er schläft, er schwitzt, weil er bald sterben wird.

Salter氏ノ、盜汗ハ體內ニ生ジタル一種ノ毒素ノ排泄ナレバ、ソヲ全然抑制スル要ナシト云フアリト雖、頑固ナル盜汗ハ患者ヲ衰弱セシムルコト甚ダシク、且又精神上ニ與フル影響頗ル大ナリト云フ可シ。彼ノ頑固ナルモノニ有リテハ月餘ニ瀰リ毎夜更衣ヲ餘義ナクシ、加之皮膚ニ微菌ノ寄生ヲ資ケ、爲ニ種々ノ皮膚病ヲサヘ發スルコトアリ。斯クテ盜汗ノ襲來竝ニソレニ對スル心痛ト恐怖ハ、患者ヲシテ寢ニ就クヲサヘ杞憂セシムルニイタル。

抑モ盜汗ハ俗ニ「ネアセ」ト稱シ、古來一般ニ睡寢ヲ窺ヒテ出ツルノ意ト爲シタレ共、萬安方第十四卷虛勞盜汗之條ヲ按ズルニ、論曰眠睡之間 盜人氣血 久則津液枯耗 謂之盜汗 即チ人ノ氣血ヲ盜ムノ義ト爲サレタリ。故ニ吾人臨牀上盜汗ニ遭遇セシ場合、止汗ニカマルハ蓋シ徒勞ノコトニアラザルヲ信ズルナリ。

盜汗ノ原因タル、諸説未ダ一定セズ、或ハ日晡上昇セル體溫ノ夜間弛緩ニ轉ズルニ際シ發スルト爲シ、發熱ノ結果ト看做ス者アリト雖、體溫上昇ナクシテ發汗スルモノナキニアラズ、又患者夜間ノ嚔咳ハ、晝間ニ於ケル如ク頻數ナラズ、爲ニ氣管枝中ニ蓄溜セル粘液塊ノ呼氣障障ニヨル血中炭酸堆積ノ爲、延髓内ノ發汗中樞刺戟サレ、盜汗ヲ爲スト云フアリ。或ハ結核性肺破壊ニヨル肺臟水分蒸發面減少。或ハ殊ニ夜間酸素攝取不十分ニヨル、血中ノ汗腺ヲ刺戟スル一定ノ物質ノ酸化不全ト稱スル者アリ。又夜間ノ脈搏、呼吸數ノ減少及ビ血壓下降等直接或ハ反射性ニ發汗ノ動機ヲ爲シ、或ハ微菌毒素ノ溫中樞、又ハ發汗中樞刺戟ト稱シ、微菌毒異常物質代謝、又ハ營養障障等ニヨル、血管運動神經系ノ異常。クローム親和系内分泌臟器ノ機能不全ニヨル皮膚血管緊張減退等ト稱ス。

カルガ故ニ、古來盜汗ニ對スル療法モ、甚ダ多方面ナリ。然レ其日常好ミテ實地醫家ニ賞用セララルモノノ二、三ヲ擧レバ、即チ「グエロナール」、「アガリチン」、「ビクロトキシシ」、樟腦酸、「エルゴチン」、「アトロピン」等ニ過ズシテ應用ニ際シ操作極メテ簡單ナリ。然レドモ從來最著效アリトナサル「アトロピン」ノ、屢々發スル頭痛、鼻咽頭腔ノ乾燥感、消化障障、或ハ下痢等ノ不快ナル副作用ヲ初メトシテ、「アガリチン」、樟腦酸等ニ於テモ亦、種々ノ副作用アリ、加之多クノモノハ殆總テ其ノ效力ハ一時性ナリ。ココニオイテ後藤瞭平氏ハ、「グリコナル」ノ偉效ヲ擧ゲ、其ノ有效期間ハ數日乃至數週ニ瀾レリト報告シ、高龜良樹氏ハ、「アドレナリン」ノ皮下注射ヲ創意シ、結核患者ノ盜汗ニ對スル「アドレナリン」ノ治療的効果ハ絕對的ナリト爲セリ。然レドモ高龜氏ハ、肺結核ト合併スルコト最多キ糖尿病、血壓亢進ノ爲心力不全ヲ來ス虞アル老人、心筋炎、心瓣膜病者ニハ應用シ得ズ又動脈瘤アル患者ニハ絕對ニ不可ナリトシ且又、小循環系ノ充血ヲ來スヲ以テ嗜血ノ虞アルモノ、著シク肺呼吸面ノ減少セルモノニ對シテハ、之ヲ禁忌セザル可カラズト爲セリ。

而シテ余ノ試ミタル五%ノ蔗糖液一〇・〇c.c.ノ筋肉(臂筋)内注射ニ於テハ、全ク禁忌症ヲ有スルコトナク、注射後該注射部位ニ微ノ疼痛ヲ爲スコトアリト雖、鎮痛劑ノ配合ニヨリ除去シ得(普通鎮痛劑ノ配合不必要ナリ)、胃腸ヲ

害スルコトナク、而モ長時ニ瀾ル效力ハ、盜汗治療上理想ニ近キモノト云ヒ得可キカ。  
左ニ余ノ實驗ニ係ル成績ヲ表示セシ。

番號	姓名	性	年齡	主 診	副 症	斷 症	盜汗總 過日數	發汗 程度	發汗 部位	注射 同數	成 績	效力持 續日數	止汗後 現時迄 ノ日數
11	H C	女	四二	右初期肺結核	胃アトニー症		三	+	全身	一	+	∞	八六
10	H H	女	二三	兩確定期肺結核	陳舊性肋膜炎		五五	++	全身殊 ニ胸部	一	+	一四	(再發)
9	F K	女	二二	兩初期肺結核			七	++	全身	二	+	∞	八〇
8	K I	男	一九	初期結肺核	兩頸淋巴腺炎		三〇	+	下腹壁	二	+	∞	八五
7	T S	男	二二	左確定期右初期肺結核			四〇	++	〃	一	+	∞	九〇
6	E T	男	三四	兩乾性肋膜炎	右肺炎浸潤 結核性腹膜炎		八〇	++	〃	一	+	一七	(再發)
5	H N	男	二四	兩完成期肺結核	兩頸淋巴腺炎		二	++	全身	二	〃	∞	六
4	K K	男	二二	右確定期肺結核	左中耳炎		六	+	全身殊ニ 上下肢	三	減著シク	∞	五
3	O K	男	二七	兩初期肺結核			四〇	卅	〃	一	+	二四	(再發)
2	K C	男	一九	確定期肺結核	右結核性頸淋巴腺炎		二二〇	++	〃	五	+	∞	五五
1	F T	男	二九	右確定期左初期肺結核			三〇	+	全身	一	+	∞	三〇

概括。注射人員十三例中

I3	I2
I T	K E
男	男
三五	三五
右初期肺結核	兩初期肺結核
三二	五
廿	廿
ニ全身殊 ニ胸部	ニ全身殊 ニ背
一	三
十	十
∞	∞
八〇	七五

(一) 一回ノ注射ニヨリ止汗セルモノ 七例

(二) 二回ノ注射ニヨリ止汗セルモノ 二例

著シク減少セルモノ 一例

(三) 三回ノ注射ニヨリ止汗セルモノ 一例

著シク減少セルモノ 一例

(四) 五回ノ注射ニヨリ止汗セルモノ 一例

右表中

(イ) 盜汗經過日數トハ、盜汗ヲ發シテヨリ、注射セシ日マデノ日數ニシテ、患者ノ記憶ニヨリシモノナレバ、素ヨリ正確ナリト云フ能ハズ。

(ロ) 注射回數トハ、全ク止汗スルニ至リシマデノ回數ヲ意味セルナリ。

(ハ) 止汗後現時マデノ日數トハ、注射ニヨリ止汗セシ患者ノ今日ニ至ルマデノ日數ニシテ、未ダ盜汗ノ再發ヲ爲サザルモノニハハのヲ付セリ。

(ニ) 表中第三例、第六例及ビ第十例ハ、一回ノ注射ニヨリ各表中示ス期間止汗シ、其後再發セシガ、患者ノ都合ニヨリ退院セルモノナリ。

(ホ) 止汗迄ニ數回ノ注射ヲ要セシモノハ毎注射毎ニ、發汗減少スルヲ實驗セリ。

原—肺結核患者ノ盜汗ニ對スル糖療法

原一肺結核患者ノ盜汗ニ對スル治療法

三四八

(一) 一度止汗セバ其後注射ハ廢スルモ、少クトモ二週長キハ數月ニ瀰リテ再發セズ。

斯ク五%ノ蔗糖液注射療法ノ長時ニ互リ、有效ナル所以ハ、上述ノ如ク「オスモーゼ」ノ變化、分泌機能ノ抑制、祛痰或ハ血管運動神經系ニ及ボス影響ニアリヤ、將又、他ニ原因ノ存シテ然ラシムルヤハ今後ノ研究ニ屬シ今直ニ斷定ス可カラザルモ、余ノ得シ此ノ臨牀上ノ成績ハ、本法ノ盜汗ニ對スル治療上ノ一方トシテ、閑却ヲ許シ得ザルヲ思ハシムルモノナリ。

此等實驗セシ患者ハ何レモ、種々衛生上ノ注意竝ニ内服藥ニヨリ、尙ホ止汗シ得ズ日夜悲歎ニ沈メルモノノミニ試ミシモノナリシカバ、只一回ノ注射ニヨリ立處ニ止汗セシ患者ニ於テ、其ノ喜ビ實ニ想像ニアマリアルモノアリキ。

此所ニ報告セル實驗例ハ、極メテ貧弱ナルモノナレド五%ノ蔗糖液モ亦盜汗ニ有效ナリト云フ事實ヲ追加シ、尙ホ盜汗治療上ニ蔗糖液注射療法ヲ推稱セントスルモノナリ。

稿ヲ終ルニ及ビ、御懇篤ナル御教示御指導ヲ辱セシ寛、廣瀬兩教授竝ニ熱誠ナル鞭撻ト多大ノ便宜ヲ賜リシ、醫局諸兄ニ謹テ深謝ノ意ヲ表ス。